

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-110897

(P2005-110897A)

(43) 公開日 平成17年4月28日(2005.4.28)

(51) Int.Cl.⁷

A61B 17/12

A61B 17/22

F I

A61B 17/12

A61B 17/22

テーマコード (参考)

4C060

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2003-347921 (P2003-347921)

(22) 出願日 平成15年10月7日 (2003.10.7)

(71) 出願人 000002141

住友ベークライト株式会社

東京都品川区東品川2丁目5番8号

(72) 発明者 水野 睦哉

秋田市土崎港相染町字中島下27-4 秋

田住友ベークライト株式会社内

Fターム(参考) 4C060 DD02 DD12 DD48 MM26

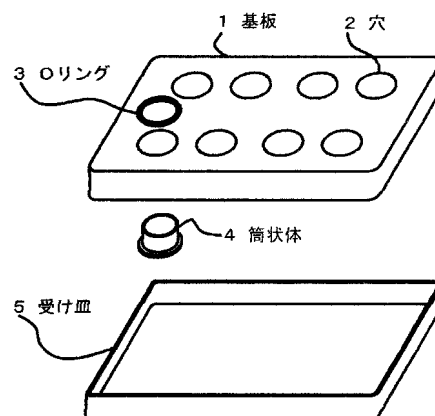
(54) 【発明の名称】 オリング装着用具

(57) 【要約】

【課題】本発明は、内視鏡的に行われる胃、食道静脈瘤結紮術において静脈瘤に被着、結紮されるオリングを内視鏡先端に取り付けられた結紮用キットのデバイス内筒先端部に装着した後、そのままでは落下散乱してしまう筒状体を容易に効率よく回収することができるオリング装着用具を提供することにある。

【解決手段】オリング装着用具の基板下部に着脱可能な受け皿を取り付けることで、内視鏡先端に取り付けられたデバイス内筒先端部にオリングを装着した後、自重で落下した筒状体を散乱させることなく効率よく回収することが可能となる。

【選択図】 【図1】



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内視鏡先端部に着脱可能に装着された胃、食道静脈瘤を被着、結紮するための結紮用キットにＯリングを装着する装着用具であって、１個または複数個の貫通孔を設けた基板と、前記貫通孔に挿抜可能な外径を有する筒状体及び前記Ｏリングを前記結紮用キットに装着後、前記筒状体を受ける受け皿から構成されたことを特徴とするＯリング装着用具。

【請求項 2】

前記受け皿は、前記基板の底部に着脱可能に配設されたものである請求項 1 記載のＯリング装着用具。

10

20

30

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、肝疾患に由来する胃、食道静脈瘤の治療目的で、静脈瘤を被着、結紮し、機械的な血行遮断により静脈瘤を縮小、消失あるいは、血栓化させる結紮術に用いる結紮用キットにＯリングを装着させるＯリング装着用具に関するものである。

【背景技術】

40

【0002】

肝硬変等に伴う胃、食道静脈瘤の治療法は、これまで内視鏡的硬化療法等内皮細胞障害性を持つ硬化剤を静脈瘤内或いは静脈瘤外に注入して局所に停滞させ、血栓を形成させることによって血行を遮断し、静脈瘤を荒廃させる手技が主流をなしていた。

【0003】

しかし、生体にとって副作用のある薬剤を経静脈的に投与することは、門脈圧亢進症の複雑な血行動態とあいまって、肺塞栓、肺不全、腎障害等の様々な合併症を引き起こしている。従って、１回に使用する硬化剤の量も制限されており、全身状態の回復を考慮しながらの治療となり治療時間も長くなる。

【0004】

50

そこで近年、胃、食道静脈瘤の治療法として、食道静脈瘤結紮術が用いられるようになってきた。食道静脈瘤結紮術とは、図5に示したように、内視鏡(10)の先端に装着した筒状のデバイス(13)内に静脈瘤(16)を吸引し、予めデバイス(13)の外側に広げてセットしたリング(3)を鉗子孔から挿入したワイヤー(14)でシリンダー(12)を引張って外し、吸引されてポリープ状になった静脈瘤(16)の根元部に掛け、リング(3)のゴムの力で機械的に静脈瘤を結紮し、荒廃させる手技である。

【0005】

食道静脈瘤結紮術により、硬化剤を使用しないか、又は硬化療法と併用することにより硬化剤の使用量が減らせることから、合併症を軽減して患者への負担が軽減されることや、治療の回数と日数が減ることから、今後この治療法の適用が増えることが予想される。

10

【0006】

本手法に使用されるリング装着用具が特許文献1に示されており、図4を用いて説明する。内視鏡(10)の先端に装着された筒状のデバイス(13)は、先端にリング(3)を装着したシリンダー(12)が入っている。シリンダー(12)には、予め内視鏡の鉗子孔(15)に通したワイヤー(14)が接続されており、ワイヤー(14)を引くことによりシリンダー(12)が後退し、その結果としてリング(3)がシリンダー(12)から脱落するようになっている。

【0007】

しかし、このリング装着用具では、リング(3)をデバイス(13)にセットする場合、内筒(6)にリング(3)を移し取った際に、基板(1)から筒状体(4)が自重で落下するが、このときの筒状体(4)は自由な状態であり、基板を移動する際に落下散乱してしまうことがあり、紛失したり術野へ混入する恐れがある。

20

【0008】

このため、術者は紛失や混入に対する配慮が必要となり、術中の管理を強いられ、精神的な負担がある。また、術後においても後処理中に落下散乱に配慮しながら取り扱う必要があり、一連の手技が繁雑になり易く、問題である。

【特許文献1】特開平8-052147

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0009】

本発明は、上記問題を鑑み、リングを結紮用キットにセットする場合、内筒にリングを移し取った後、基板から筒状体が自重落下しても散乱せず、紛失又は術野へ混入する恐れのないリング装着用具を提供することにある。

30

【課題を解決するための手段】

【0010】

即ち本発明は、

(1)内視鏡先端部に着脱可能に装着された胃、食道静脈瘤を被着、結紮するための結紮用キットにリングを装着する装着用具であって、1個または複数個の貫通孔を設けた基板と、前記貫通孔に挿抜可能な外径を有する筒状体及び前記リングを前記結紮用キットに装着後、前記筒状体を受ける受け皿から構成されたことを特徴とするリング装着用具

40

(2)前記受け皿は、前記基板の底部に着脱可能に配設されたものである(1)記載のリング装着用具、

(1)である。

【発明の効果】

【0011】

本発明により、内視鏡的に胃、食道静脈瘤を被着、結紮するための結紮用キットにリングを装着した後に不要となる筒状体を基板と受け皿の間に自重で落下させ、効率良く回収することができる。

【0012】

50

また、本発明により手技中の筒状体の散乱を未然に防止することができ、医療用具部品の紛失・混入の危険性がなくなり、術中・術後における術者の医療用具取扱上の精神的負担も軽減され、医療用具の後処理も含め、治療の作業効率も向上する。

【0013】

更に、近年の廃棄物処理にあっては、分別回収を材質毎に細分化する傾向が見られ、着脱方式の受け皿の採用により、作業性を向上させると共に、分別も容易に行うことができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0014】

図1は、本発明の1実施例であるリング装着用具の概略を示すものである。図2にリング装着用具に本発明である受け皿(5)を装着した内視鏡操作時の状態を示す。 10

【0015】

図3に従来のリング装着用具での不具合(散乱)の状態を示す。このリング装着用具では、内視鏡先端部に装着された内筒(6)を筒状体(4)内に挿入し、リング(3)を内筒(6)に移し取る操作を行った際、筒状体(4)は自重で下方に落下するが基板(1)を移動させると、筒状体(4)は散乱してしまう。

【産業上の利用可能性】

【0016】

内視鏡的に行われる胃、食道静脈瘤結紮術において、結紮用キットの使用後に不要となる部品の術中術後における医療用具の取扱をより簡便に行うことができ、余分な管理が不要となる。 20

【図面の簡単な説明】

【0017】

【図1】本発明の一実施例となるリング装着用具の概略図。

【図2】本発明の一実施例となるリング装着用具の操作時の概略図。

【図3】比較例1の従来品でのリング装着用具の不具合の状態を示す。

【図4】リングを装着した結紮用キットを内視鏡に装着した状態の先端拡大図。

【図5】結紮用キットを内視鏡に装着し、静脈瘤を結紮したときの概略図。

【符号の説明】

【0018】

- 1．基板
- 2．穴
- 3．リング
- 4．筒状体
- 5．受け皿
- 6．内筒
- 7．スライド筒
- 8．外筒
- 9．チューブ
- 10．内視鏡
- 11．装着用筒
- 12．シリンダー
- 13．デバイス
- 14．ワイヤー
- 15．鉗子孔
- 16．静脈瘤

30

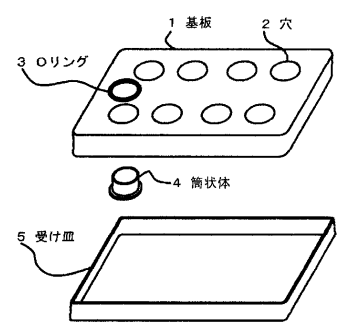
40

50

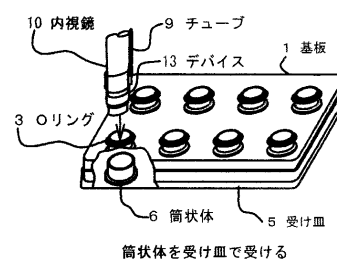
10

20

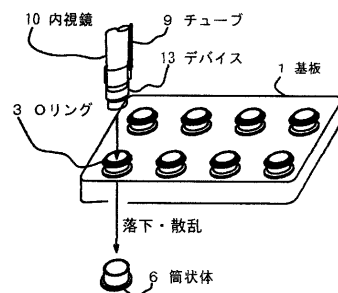
【図 1】



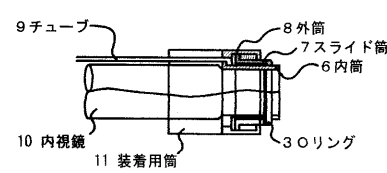
【図 2】



【図 3】

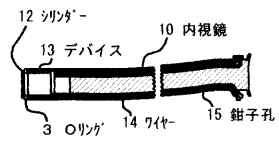


【図 4】

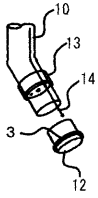


【図 5】

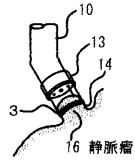
(a)



(b)



(c)



专利名称(译)	O型圈安装工具		
公开(公告)号	JP2005110897A	公开(公告)日	2005-04-28
申请号	JP2003347921	申请日	2003-10-07
[标]申请(专利权)人(译)	住友电木株式会社		
申请(专利权)人(译)	住友ペークライト株式会社		
[标]发明人	水野睦哉		
发明人	水野 睦哉		
IPC分类号	A61B17/12 A61B17/22		
FI分类号	A61B17/12 A61B17/22 A61B17/22.528		
F-TERM分类号	4C060/DD02 4C060/DD12 4C060/DD48 4C060/MM26 4C160/DD02 4C160/DD12 4C160/DD53 4C160/DD62 4C160/DD70 4C160/MM43		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：提供一种O形环附着工具，能够有效地附着O形环，该O形环附着并结扎到胃和食道静脉曲张的内窥镜结扎中的静脉曲张上，附着到用于结扎的套件的装置内部圆柱尖端部分到内窥镜尖端然后容易且有效地恢复圆柱体，当它原样离开时它会下落并散开。ŽSOLUTION：通过将可拆卸托盘安装到O形环安装工具的基板下部，将O形环安装到安装在内窥镜端部的设备内部圆筒尖端部分后，可以有效地回收因重力而下落的圆柱体，而不会使其散开。Ž

